



創刊
昭和42年10月10日
第140号
平成27年6月29日
能代市教育委員会
学校教育課
題字 元能代市教育長
鎌田 宏

地域にとっても頼りがいのある学校に



巻頭言



淳城西小学校長

工藤 文雄

outsourcingとは、企業が業績の向上等を目指し、外部委託を進めて経営を効率化する考え方で、既に自治体でも実施されている。

最近の国の文教政策の方向性、例えば「チーム学校」。教職員に求められる役割が拡大する割に学校には専門スタッフは少ないので、それらの人材を学校に配置して教育力や組織力を高めようとする考え方である。すべての学校をコミュニティ・スクールに、という動きもoutsourcingと同様である。教育の現場は、外部委託というより、外部資源の有効活用と言った方が理解しやすい。学校でも既に、授業や活動で地域人材などの資源を活用したり、特別支援教育などで

専門家の知見や専門機関の力を頼りにしたりしており、今後一層組織的に推進されることだろう。

私たちは本来、主体的に子どもたちの成長に資するカリキュラムを編成し実践していく存在である。その負担は大きく感じられるので、多忙さの中では、学校内部で業務を完結し外部と距離をおきがちになることもままある。しかし、学校はもともと地域とつながりあっており、地域も学校や子どもに期待していることは多い。上手にoutsourcingすれば負担も減じ、よりよい実践ができる場合が多い。これから先の学校や教員が高めたい力は、地域の多様な資源を知り、カリキュラムとして編成し実践

県総合教育センター公開講演

研修のいい機会です。ぜひ、ご参加を！

- 7月28日（火）13:00～14:30
演題「今、求められている道徳教育の充実」
（文部科学省初等中等教育局
教育課監修教科調査官 赤堀 博行 氏）
- 7月29日（水）13:30～16:00
演題「学びの多様性と
授業のユニバーサルデザイン」
（東京都立青山特別支援学校
主任教諭 川上 康則 氏）
- 9月18日（金）14:00～16:00
演題「言語活動の充実を図る単元の構想」
（文部科学省初等中等教育局
教育課監修教科調査官 大滝 一登 氏）

輝きの一場面 朴瀬小学校



創立140周年記念春季大運動会
～1年生2名と中学生の行進～

していく力、そして地域を元気づけることも含め地域に貢献できる学校を作り上げる力であると思う。学校が地域の力を生かすことに主体的な姿勢で取り組むことで、学校は地域社会・地域住民から、次世代を担う人材を育てる強い使命感をもち、頼りがいがある存在であることが再認識されると思う。

スクールニュース 二ツ井小学校



ふるさとへ

響け歌声 県民歌

二ツ井小 教頭 櫻庭 潤

能代市二ツ井といえば、秋田杉。その集散地であった仁鮎（響）地区で開校した仁鮎小学校は、音楽家 成田為三氏の母校である。（響の地名は、木や石を切る音が毎日響き渡ったことに由来しているそうだ。）

二ツ井小学校は、「笑顔 あいさつ・歌声・日本一！」を掲げ取り組んできている。特に全校児童の歌声は、杉の香る教室や体育館に響き渡り、心が洗われる。

今年度からふるさとの先人を思い、今月の歌として「秋田県民歌」を全校で歌い継いでいこうと計画している。児童の歌う「秀麗無比なる……」をふるさとへ、輝く歌声として、ずっと響かせていきたい。

これが私の指導法

～知的財産の継承～



向能代小学校

教諭 大淵倫子

「自立した学習者を育てる」私が日頃から意識していることです。そのために、今ここに

ある問題をどうしたら解決できるかを実践的に学ぶ機会を大切にしています。現在担任している4年生の子どもたちは、毎日あらゆる場面で国語辞典を使っています。小学生用の辞典では飽き足らず、2冊持ちをする子もいます。おかげで、語彙が豊富な子に育っていると思います。また、今年初めて取り組んでいることに、国語ノートの下5センチを使った「お楽しみコーナー」があります。そこには授業で出た国語用語について

て大事なことを書き込んだり、課題が早く終わったときに国語辞典で調べたことを書いたりしています。コーナーの使い方は自由ですが、それぞれが上手に使えるようになってきました。実はこのコーナー、昨秋参加した研修会で仕入れてきたものです。「犬も歩けば棒に当たる」とは、本来、行動力によって運を引き寄せるといい意味で使われていた言葉です。私は校外の研修会は可能な限り参加したいと思っています。

ます。優れた実践者に学ぶことで、「付けた力」という山に登る新しいルートに出会うことができます。そして、そこで得たことはできるだけチャレンジするようにしています。我が学級の子どもは、よくしゃべります。私はそれを受け止めて、価値付けるようにしています。子ども自身が真理を見付けられるようにコーディネートするのが役目だと思っています。授業はライブ、時を逃さずに発言しよ、後はこつちがなんとかするから。というのが私のスタイルです。

我が校の実践

能代南中学校

教諭 藤谷 寛

『当たり前前の恒常化』

昨年度の実践により高まった生徒の意欲を持続させ、結果へと結びつけるため、学ぶ環境の整備を次の段階と捉え、今年度から「三つの学習ルール」「三つの学び場」を柱とした「南中型授業モデルづくり」に取り組んでいく。

「三つの学習ルール」高まった意欲や整備された環境を十分に機能させるためには、生徒自身の正しい学習姿勢は必要不可欠となる。そこで、これまでの

3分前着席全校統一あいさつの「始業時の約束」に、「発言の約束」「聴き方の約束」を加えた、「三つの学習ルール」の徹底を目指す。

「三つの学び場」

「今日の学習は、単元のゴールに向け、どんな役割を果たしているのか」「今日の学習でどんな力が付いたのか、また、単元のゴールにどのくらい近付いたのか」などという意識をもちながら学習に参加できれば、また、練り合い学び合う活動場面が十分に確保されれば、意欲の持続はもてる、学習事項の確かな定着も期待できる。そこで、「学習を見通す場・練り合い学び合う場・ゴールを確認し学習を振り返る場」これら3つの学びの場を確保した授業の実践に取り組んでいく。

どれも特別な取組ではないが、当たり前前の徹底が、実り多い学習の実現を支えてくれるという期待



のもと、この2点を柱とした「南中型授業モデル」の確立に向け、教師間で意見交換を繰り返しながら、実践を積み重ねていきたいと思っています。

編集後記

能代第一中学校で行われた「生徒を語る会」において、私自身初めての学校訪問を経験しました。校長先生の「やっぱり授業だよな」という言葉が心にたちました。

能代の子どもたちの輝きを支えているのは、先生方の力だと感じることがたくさんあります。その先生方の言葉や実践を皆さんの心に届くように伝えていけたら…。学校からの帰り道、気持ちが引き締められました。(Y)

